

to the white sea

- returning memories -

motoi yamamoto

しろきうみへ

- 記憶は白く、海へと還る -

山本基

 **尾道市立美術館**
ONOMICHI CITY MUSEUM OF ART
〒722-0032 尾道市西土堂町17-19千光寺公園内 Tel.0848-23-2281

■
会
期

2026年9月19日^土～11月15日^日

開館時間：9:00～17:00(入館16:30 まで)

休館日：月曜日(9/21・10/12は祝日のため開館、翌10/13休館)

■
観
覧
料

一般／1,000円、学生／600円 ※中学生以下無料

※前売りは各200円引、団体(20名以上)は各100円引

前売券販売所：中国新聞販売所(取り寄せ)、啓文社各店、
JR 尾道駅観光案内所、生協ひろしま

※70歳以上、障害者手帳(ミライロID可)をお持ちの方は、
証明できるものを提示により無料

《
主
催
・
後
援
協
力
》

主催：尾道市立美術館、中国新聞備後本社

後援：広島県、尾道エフエム放送、ちゅピCOM、エフエムふくやま

企画協力：YUKIKOMIZUTANI

協力：AIR Onomichi、NPO法人尾道空き家再生プロジェクト、尾道市立大学、
記憶のかげらプロジェクト実行委員会、ナイカイ塩業株式会社(50音順)

助成：公益財団法人三菱UFJ 信託地域文化財団

しろきうみへ

- 記憶は白く、海へと還る -

山本基

to the white sea
- returning memories -

motoi yamamoto

塩で描かれた緻密な線が、白く広がる。

山本基は、塩を素材に、記憶や時間といった見えないものを留めようとする制作を続けてきた。故郷・尾道で開催する本展は、初期の油彩から代表的な塩のインスタレーション、近年の平面作品、そして奥能登国際芸術祭での出品作が能登半島地震により倒壊したことを受け、その記憶を再構築する新作まで、35年の歩みをたどる個展である。会期最終日には、参加者と共に作品を崩し、その塩を海へ還すプロジェクトを実施する。

一 つくり続けてきた時間がしろき空間に結晶し、訪れる人の記憶と静かに出会う。

《関連イベント》

※特記のないイベントは参加無料・申込み不要（要・展覧会観覧料）

1 記念講演会「忘れないためにつくり続ける」

講師：山本基（本展アーティスト）

9月19日（土）14:00～15:00

2 公開制作

9月19日（土）～22日（火・祝） 全日とも9:00～17:00（休憩・不在時あり）

内容：塩を用いて制作する様子をご覧ください。

3 記憶のかけらプロジェクト

「アクセサリー作り・ワークショップ」

9月20日（日）、21日（月・祝） 両日とも10:00～16:00（受付15:30まで）

体験料：1,000円

内容：震災で崩れた作品の塩を用いた

アクセサリー作りを体験いただけます。

参加方法：当日先着順

※予約フォームより事前予約も可

4 海に還るプロジェクト

11月15日（日）15:30～17:00（15:00 から受付開始）

会場：尾道市立美術館 第4・6展示室

内容：参加者の皆さまが本展アーティスト・山本とともに

塩で作られた作品を崩し、尾道の海へと還す

体験型プロジェクトです。

（塩をお持ち帰りの上、後日ご自身で海に還していただいても構いません）

5 ギャラリー・トーク（当館学芸員）

10月4日（日）、11月8日（日） 両日とも14:00～14:45まで

6 わいわい がやがや おしゃべり鑑賞会

10月11日（日）、10月25日（日） 両日とも14:00～15:00まで

対象：中学生以下。付添1名無料

内容：こどもたちを対象にした鑑賞会。資料をもとに作品を楽しみます。

【公共交通機関】

◎ JR山陽本線「尾道駅」から東行きバス（①番のりば）で「長江口」下車、千光寺山ロープウェイで千光寺公園へ。

◎ JR山陽本線「尾道駅」/ JR山陽新幹線「新尾道駅」から、タクシーで約15分。

※ 美術館最寄り「千光寺公園」行きバスは便数が少ないため、ご注意ください。

【自動車】

◎ 山陽自動車道・尾道ICから約20分、福山西ICから約15分

※ 千光寺山ドライブウェイ経由で「千光寺公園駐車場（有料）」ご利用の場合、入館時に駐車券の提示で1名限り200円割引。

〒722-0032 広島県尾道市西土堂町17-19 千光寺公園内 Tel. 0848-23-2281

アソビュー！

電子チケット

（会期中も前売り価格で販売）



【ご来館のお客様へ】

会期・イベントは変更になる場合があります。
最新情報は公式 HP でご確認ください。

<https://www.onomichi-museum.jp/>

COCORONOMACHI

※COCORONOMACHIとは、一人ひとりが尾道市への愛と誇りを抱くことを目的とした「シビックプライド」キャッチフレーズです。



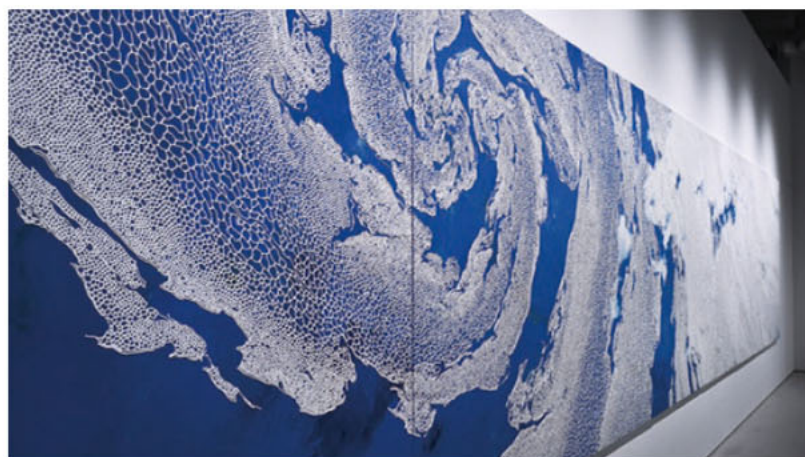
北アルプス国際芸術祭 2024 ©Mike Chaney



「生命I」1992年（個人蔵）



奥能登国際芸術祭作品の再構築イメージ



「時に宿る」2023年（個人蔵）

【山本基 略歴】

1966年広島県尾道市生まれ。1995年金沢美術工芸大学卒業。金沢市在住。若くして他界した妹や妻との記憶に向き合い塩を用いた制作を続けている。MoMA PS1、エルミタージュ美術館、東京都現代美術館、金沢21世紀美術館、ポーラ美術館、瀬戸内国際芸術祭など数多くの展覧会に参加。主な個展に「しろきしろへ」下山芸術の森 発電所美術館（富山・2005）「Salz」サンクト・ペーター教会（ケルン・2010）「しろきもりへ」彫刻の森美術館（神奈川・2011）「Return to the Sea」チャールストン他米国6都市巡回（2012-14）「時の積層 - 記憶へ -」YUKIKOMIZUTANI（東京・2025）などがある。尾道では、「AIR Onomichi 2007」、「十字路 - 海と山のアート回廊 2017」に続き今回が3回目の発表となる。



《同時開催》

「和作ウィーク2026」 - しろきみちのありか

10月31日、11月1日、3日、4日、7日、8日、14日、15日
（計8日間）13:00～17:00

会場：VILLA WASAKU（小林和作旧居）尾道市長江2丁目18-21

内容：金屏風を含む山本作品の展示、

短編ドキュメンタリー映画《REQUIEM IN SALT》上映など

観覧料：一般／1,000円（市立美術館チケット提示で500円）

学生／無料

お問い合わせ：Tel. 080-6323-9921 mail@onomichisaisei.com

JR新尾道駅
SHIN-ONOMICHI STATION



尾道市立美術館

